

(6) 有害赤潮広域共同調査

予算

水産庁委託：

令和5年度豊かな漁場環境推進事業のうち赤潮等による漁業被害対策技術の開発・実証・高度化

概要

1. 夏季海洋モニタリング調査

6～8月に瀬戸内海東部5府県共同で有害プランクトンの広域モニタリングを行うとともに、その情報を関係者に迅速に伝達し、被害の未然防止に努めた。

2. 冬季海洋モニタリング調査

11～2月に瀬戸内海東部5府県共同でノリ色落ち原因珪藻類の発生モニタリングを行うとともに、その情報を関係者に迅速に伝達し、色落ち被害の軽減に努めた。

3. 有害赤潮発生シナリオ及び発生予察技術の検証

過去事業で作成した赤潮予察技術を用いて予察を行い、結果検証、発生シナリオとの適合状況を検証した。予察対象種の拡大に向けて、新たな対象種の選定を実施した。

4. 行動計画の検討

新たな赤潮対策を策定するために、瀬戸内海東部5府県の対策実施状況について整理し、可視化を行った。

担当者

秋山 諭、辻村裕紀、近藤 健、横松宏幸、久保文雄、山本圭吾